

総合計画策定審議会 第6回第1専門部会 議論シート

平成20年6月27日
総合計画策定審議会 資料

分野	これまでの議論	論点
都市基盤分野	<p>(中間報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの都市形成の歴史や社会資本の蓄積を踏まえ、持続可能で活力のある快適なまちづくりをすすめていくことが必要です。 既存の都市基盤の適切な維持管理や有効活用をはかる。 ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、誰もが住みやすいまちづくりをすすめていくことが必要である。 <p>(議論済みの項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き地や空き家の利用促進のための対策が必要。 住みやすさのメリットを感じる事が重要。 住宅地については、面的な視点が重要。まちにある程度の統一感が必要。 市営住宅の高層化のような限りある土地の高度利用をはかることも一つの手法。 	<p>公営住宅整備の方向について</p> <p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平均倍率 H16:23.21倍 H17:11.98倍 H18:12.38倍 H19:14.87倍 戸数 H16:2,975戸 H17:2,982戸 H18:3,124戸 H19:2,986戸 <ul style="list-style-type: none"> 住宅に困窮する低所得者に対して市営住宅を供給
	<p>(中間報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> 航空、鉄道、高速道路などの広域的な交通ネットワークの整備がすすんでいる。 今後は交流人口や農産物の物流面などにおいてプラス効果が発揮されるよう、利活用の促進をはかることが必要です。 高齢者など交通弱者の移動手段を確保するため公共交通の活性化、多様化についても取り組むことが必要です。 <p>(議論済みの項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道や高速道路のインフラ整備は充実してきている。 空港のダブルトラッキング化やハブ空港をにらんだ利活用について検討することも必要。 交通網についてはハード中心から利活用へ視点が変わってきている。 	<p>とちか帯広空港の機能充実について</p> <p>(参考) 帯広-東京線の利用人数 H16:520,551人 H17:541,619人 H18:548,878人 H19:549,605人</p> <p>国際チャーター便の利用人数 H16:41,094人 H17:54,302人 H18:35,059人 H19:37,263人</p> <p>十勝港の利用促進について</p> <p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> 十勝港取扱貨物の状況 H14:1,001.2千ト H15:1,034.9千ト H16:1,227.2千ト H17:1,136.3千ト H18: 974.2千ト H19: 935.5千ト <p>鉄道輸送の利便性向上について</p> <p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> 帯広駅乗車人員 H14:88.2万人 H15:85.0万人 H16:82.1万人 H17:81.8万人 H18:81.8万人 JR貨物取扱状況(発送+到着) H14:75.8万ト H15:73.6万ト H16:66.9万ト H17:65.7万ト H18:65.4万ト <p>のぼり13便(うち高速10便) くだり13便(うち高速10便)</p>
	<p>(中間報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な分野での情報の収集・発信が求められることから、情報通信ネットワークの環境整備に取り組むことが必要です。 <p>(議論済みの項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 農村部の普及において制度や技術的な課題がある。 10年後を見据えて市全域をカバーする通信網を考えていく必要がある。地域全体の意識の高まりが必要。 	

分野	これまでの議論	論点
経済・産業分野	<p>(中間報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> 品質の高い地域ブランドなど優れた点を活かし、競争力の向上など体質強化をすすめ、環境の変化に対応できる持続的な農業を確立していくことが必要です。 安心・安全な農畜産物の生産に対する消費者の期待に応えるとともに、生産者と消費者が相互に理解し交流を深め合いながら、地産地消など農業のもつ多面的機能を活かす取り組みをすすめていくことが必要です。 林業については、安価な輸入材の増加などにより、森林資源としての利用形態が大きく変わってきている一方で、森林のもつ様々な役割が見直されており、他の産業との連携により地域の林業を守り続けていくことが必要です。 ばんえい競馬は、農耕文化を発祥とする世界で唯一の競馬であり、こうした魅力を観光資源として活用することが必要です。 <p>(議論済みの項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性の活動を農村の活性化につなげていくことが必要。 	
	<p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業者がまちに出向いて消費者との交流を深めるほか、農業、安全な農産物のPRなどの取り組みが活発になってきている。 生産振興はもちろんのこと、農業理解においては女性の活躍が期待される。 観光から見た農業では、これからは消費者との観光での結びつきも求められる。 十勝は情報発信力がまだ弱い、観光や物産の拠点をつくり、売り込む仕組みづくりが必要。 最近の農産物の価格の面では5～10%程度の減となっているが、これに対応していく必要がある。 林業については、環境がキーワードとなる。これまで素材供給型であったが、今後は付加価値を高めていかなければならず、工業との連携が必要となる。 	
	<p>(中間報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> まちの賑わいを維持するためには、帯広の顔である中心市街地の活性化が重要です。 食文化など地域の特色ある資源を活かしながら、商業と観光の結びつきをより強め、訪れてみたいと思わせる魅力づくりや、歩きたくなるまちづくりに取り組むことが必要。 交通アクセスの向上など、多くの人が集まりふれあうことができる環境を整備することが必要です。 <p>(議論済みの項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 釧路市では、国の合同庁舎を核に活性化された例がある。 	
地域社会づくり分野	<p>(中間報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国籍・文化・習慣などが異なる人たちと接する機会に恵まれている利点を活かし、市民が国際感覚を磨き、異なる文化や価値観を尊重し合い、互いに高め合う社会をつくる必要があります。 交流活動については、親善交流のみならず、福祉・医療・産業・観光・教育など様々な分野において、市民が主体となった交流をすすめて、それぞれの活動につなげていくことが必要です。 <p>(議論済みの項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流は観光、産業につながり、ある意味では外貨獲得である。十勝に貢献するような交流を展開すべき。 	

総合計画策定審議会 第6回第1専門部会 議論シート

平成20年6月27日
総合計画策定審議会 資料

分野	これまでの議論	論点
地域社会づくり分野	7. 平和と人権 (中間報告) ・地域社会には、様々な人たちが、それぞれの役割を担いながら暮らしています。障害の有無や年齢・性別などにかかわらず、すべての人が暮らしやすい社会を実現するためには、それぞれの人が立場の違いを理解し、お互いに人権を尊重し、支え合うための環境整備をすすめていく必要があります。	平和に対する意識向上について (参考) ・帯広市は平成3年に核兵器廃絶平和都市宣言 ・平和に関する啓発事業 (パネル展示、ビデオ上映、平和コンサート、語り部の会、平和の絵募集、平和カレンダー等)
	8. 男女共同参画 (中間報告) ・性別にかかわらず、意欲と能力に応じて、仕事、家庭など様々な分野で活躍できる男女共同参画社会を実現することが求められていますが、女性は、結婚、出産、子育て期に仕事をやめる傾向があります。 ・女性が働きながら子育てしやすい職場環境を整備 (議論済みの項目) ・計画等の策定段階から女性の視点を取り入れることが必要。 ・男女が平等であることの意識啓発が必要 ・女性への暴力を根絶するため、DV相談は道と連携した取り組みが必要。	
	9. ユニバーサルデザイン (中間報告) ・ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、誰もが住みやすいまちづくりをすすめていく必要があります。	ユニバーサルデザインの普及について (参考) ・ユニバーサルデザイン普及の主な取り組み UD教室の実施 H13からH19までに小中学校で述べ35校、1,812人を対象に実施
	10. アイヌの人たち	アイヌの人たちについて (参考) ・帯広市では、アイヌ施策推進計画に基づき、 教育の振興 アイヌ民族についての理解促進 文化の振興 生活の自立と生活環境の充実に を基本に施策を推進。
	11. 地域コミュニティ (議論済みの項目) ・人のコミュニケーションを促進するため、人が集まる場所の有効活用が必要	

次回議論予定テーマ

- 工業
- 商業
- 観光
- 労働
- 産業連携
- 自治体経営
- 広域連携